■ユーザー訪問
大洞印刷㈱

㈱桜井グラフィックシステムズ／ユーザー訪問

特殊印刷の力強い味方

ストップシリンダー型全自動スクリーン印刷機「マエストロ80SD」

大洞印刷㈱（大洞正和社長）は、1932年に活版印刷会社として創業。裏カーボン複写伝票を主に事業展開し、1999年にフォーム輪転6色機の導入、その後、CTPによるプリプレスのフルデジタル化、UVオフセット印刷機を導入し特殊印刷事業の開始、デジタル印刷機の導入と、常に時代の流れを読みイノベーションを続けている。そして、昨年2月、桜井グラフィックシステムズ㈱（以下、桜井）の精密ストップシリンダー型全自動スクリーン印刷機「マエストロ80SD（MS・80SD）」が以前の本社である岐阜工場に導入された。今回、同社をお尋ねし、特殊印刷部門を管掌する大洞広和専務に導入の経緯、今後の展開などをお聞きした。

専務取締役
大洞広和

特殊印刷の新たな可能性を探るマエストロ80SD

●チェンジのためのチャレンジ

創業の活版印刷から量産体制のフォーム輪転機、オフセット印刷機の導入と伝票印刷の体制が強化された。それとともにもう一つの柱となる特殊印刷への取り組みが始まった。その経緯について大洞専務は次のように語った。

「祖父から聞いた話では、戦前から岐阜県南部の企業や印刷会社から伝票類の仕事を受け印刷しており、『裏カーボンの大洞』として有名でした。そうした中、ロットの大きい物やコンピュータ用の帳票への対応のためフォーム輪転機を入れ、ビジネスフォームの生産体制の強化を図りました。

しかし、今後の事業展開を考えた時、フォーム印刷に特化していても良いのかという疑問がありました。とは言え、商業印刷に参入することは、今まで仕事を頂いていた印刷会社との競合になります。そうしたことを考えた末、導き出したのが、印刷会社のできないことを手助けする特殊印刷という分野でした。ですから、オフセットはUV印刷機ですし、デジタル印刷機もフィルム印刷が可能なものにしています。

現在、特殊印刷とフォーム印刷が2本柱で、特殊印刷が7割というところまできています」。

創業のフォーム印刷ともう一つの柱と考えた特殊印刷が大きく育ってきている。

「経営理念は『チェンジ』です。これ自体は、3年ほど前に決めましたが、創業から常にいろいろなことにチェンジをしてきています。チェンジのためのチャレンジ。UVオフセット印刷機を入れたときもUVオフセット印刷の細かいところまで知っている者はいませんでしたし、箔押しも未経験から始めました。そして今回のスクリーン印刷もゼロからのスタートでした。スクリーン印刷機を導入しないで協力会社に依頼する方法もありますが、自社にノウハウが蓄積できません。そうすると、提案ができないので受けの仕事になり、チェンジすることはできません。ゼロから始めるのは、時間も、いろいろな費用もかかりますが、苦労をして開発したことは自社の力になります。

スクリーン印刷機は、原反、インキ、スクリーン版、スキージーの圧、スキージーの角度など多くの要素で大きくかわります。一年が経ちましたが、今でもいろいろなテストをしています。新しい仕事は全てテストから始めるようなものです。現在は20種類以上のパターンとそれに派生するノウハウが蓄積されています」。

ゼロからスタートして、1年で数百のノウハウを蓄積した。

大洞印刷本社工場前景

未来は「チェンジ」から
新たな提案商品開発への第一歩
桜井がベストパートナー

同社が、スクリーン印刷のパートナーとして選んだのが桜井であった。

「導入に関しては、桜井さんのスクリーン印刷機しか考えませんでした。桜井にはスクリーン印刷の豊富なノウハウがあります。我々ゼロから始めるのですから、メーカーが持っている技術、ノウハウは非常に重要になります。また、桜井隆太社長にも親身になって相談にのっていただきました。そして、もう一つ有利なことは、桜井さんの岐阜工場が近くにあることです」と絶大な信頼をおく。

同社では、桜井のスクリーン印刷機の中から、マエストロ80SDを選択した。

「マエストロ80SDは、単独サーボモータータイプですから、小さなサイズの仕事には小さいスクリーン版が使えます。スクリーン版は高価なものですから、非常に助かります。それに、スクリーン印刷はスクリーン版にスキージーで圧をかけますから伸びが生じやすいです。送り方向の伸びは、単独サーボモーターで版と原反の動きを調整できるので見当が正確にあいます。特殊印刷の場合は、お客様はその加工が目当てですから、目もその部分にいきます。ほんの少しずれるだけでクレームに繋がります。オフセット、デジタル印刷、スクリーンのクロス運用を考えた時マエストロ80SDの選択はベストであったと思います」。

高性能のマエストロ80SDの導入であるが、スクリーン印刷の仕事を取りにいくのではない。

「デジタル印刷機や今回スクリーン印刷機を入れましたが、大洞印刷の事業は、フォーム印刷と特殊印刷の2つです。昔から大洞印刷を利用していただいているフォーム印刷、そして、スクリーン印刷、デジタル印刷、UVオフセット印刷をクロスしての特殊印刷です。

もちろんお客様から依頼があれば、スクリーン印刷単独の仕事も請けますが、基本的には、特殊印刷の一つのラインとして新しい市場を創造することです。そうした眼で見たとき、マエストロ80SDは、上下ベアリングの見当機構、版枠とシリンダーの位相制御の刷り伸び補正、印圧デジタル制御装置付きのスキージー装置など優れた機能を持ち、特殊印刷の力強い味方となります。今回の導入は、新たな提案、新しい商品開発への大きな一歩になると思います」。

経営理念の「チェンジ」精神が社内に満ち溢れている同社は、次なる展開のための情報収集に余念がない。

●新しいパッケージの提案を目指す

一般的に特殊な技術を持つ会社は社内を秘密にするが、同社は、組合、メーカーのお客様などの社内見学を受け入れている。

「機械はメーカーに言えば、買うことができます。ノウハウが問題です。今まで大洞印刷が積み上げてきたノウハウです。特殊印刷の豊富な技術を持っていますから、社内見学をして、提携して、印刷会社の提案力を増やしていただきたいですね。難しいことでも喜んでお手伝いさせていただきます。また、こうしたことができないかなという相談もしていただければ、お客様へ他社と違った提案ができると思います」。

そして、今、大洞専務が、新たな取り組みとして考えているのが、新しいパッケージの提案である。

「社内にはいろいろな設備を備えています。その使い方を知り、できることを知ることで新しい道も見えてくると思います。社員にも展示会などで珍しいものがあったらもらってくるように言っています。その技術と他の技術をクロスすることで新しい提案ができるかも知れません。印刷会社や広告代理店、デザイナーへUVオフセットとデジタル印刷、そしてスクリーン印刷を掛け合わせた提案を行なっています」。

大小2つのラインを持つクリアファイルなどの型抜き用トムソンなど各種の設備が並び、社内一貫生産することで、新たな市場を創造するためのノウハウの蓄積している。

「今後、特に力を入れて行きたい分野は、PPやPETなどの透明パッケージの分野です。透明パッケージのUV印刷は少々ノウハウが必要で自社の強みでもあります。また、デジタル、スクリーン、UVオフセットのクロスによる他社の真似のできないものを開発していきたいです」。

現在、インターネット展開をしているクリアファイルなどのフィルムUV印刷で名前が知られている同社であるが、弛まぬイノベーションの途中であり、新しい市場開拓というチェンジは続けられている。

大洞印刷㈱
本社　〒501-0466　岐阜県本巣市下真桑290-1
TEL　058-320-5123
FAX　058-323-2301
岐阜工場　岐阜市折立柿添438-1

特殊印刷の製品サンプル